松 久 保 遺 跡

調査の概要

松久保遺跡は北設楽郡東栄町大字中設楽字松久保に所在する。本遺跡は愛知県の東北端、三河山間部に位置し、県内に僅かに入り込む天竜川水系に属している。振草川（大千瀬川）によって形成された南向き緩斜の河岸段丘上（標高約300m）に遺跡は立地しており、周辺には縄文時代を中心とする多くの遺跡が見られる。

調査は県立特別養護老人ホーム建設工事の事前調査として、平成２年10月から翌年３月まで、約６ヶ月実施した。調査区及びその周辺は、水捌けのよい南向きの緩斜面であることから、畑地として利用されており、その周囲は植林による杉、檜で囲まれている。調査区内の基本層序を概観すると、地表面から20～80cmの厚さで淡茶褐色の耕作土が堆積しており、その下に20～60cmの厚さで黒褐色粘質土が堆積し、さらにその下には20～40cmの厚さで暗灰褐色粘質土が堆積している。基盤層は、礫を伴う明黄褐色粘質土である。遺構面は大きく２時期に分けられる。黒褐色粘質土層を掘り込んでいる上面は、溝２条、土坑数基を検出したが、これらは中世末から近世にかけてのものと思われる。暗灰褐色及び明黄褐色粘質土を掘り込んでいる下面では、数ヶ所の土坑等を検出し、縄文時代中期から弥生時代中期にかけての土器片、石器片等が出土しており、現在その性格を検討中である。

（松田　訓）

作 業 風 景

ＳＢ102（南西から）